

2018年1月1日

第284号

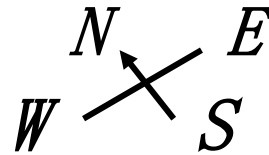
藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

主
な
記
事

- ・ふじさわ環境フェア開催
- ・武田薬品漏洩事故から6年
- ・セメント公害セメント公害か?・放射能測定値
- ・ジェット気流発見にまつわる話



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

初 夢

想像してごらん —— 核兵器のない世界を！

(2017年7月7日、122カ国の賛成多数で国連は核兵器禁止条約を採択。50カ国が批准すれば発効する。

語り継いだ被爆者たち、核兵器廃絶署名を集め訴えた市民団体などを代表して ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン) がノーベル平和賞を受賞)

想像してごらん —— 武器のない世界を！

(日本国憲法9条は、武力の行使は永久にこれを放棄する、戦力を保持しないと宣言。
中米コスタリカは軍隊を持っていない)

想像してごらん —— 戦争のない世界を！

(日本国憲法9条は国の交戦権は認めないと宣言)
戦争は最大の人権蹂躪、環境破壊

想像してごらん —— 原発のない世界を！

(チェルノブイリ・福島原発事故を忘れない。原発は人類と共存しない。原発被災者の救済を)

想像してごらん ——

自然・再生エネルギー 100%の世界を！
(ドイツ、ベルギー、スイスなどが脱原発を
決めている)

想像してごらん ——

子どもや若者が明るい未来を描ける社会を！
(子ども食堂が必要ない世界を
正職員が当たり前の働く社会を)

想像してごらん ——

胸を張って次世代にバトンタッチできる社会を！
(青柳節子)



辻堂海岸から見た富士 松本氏提供

第 22 回ふじさわ環境フェア



ふじさわ環境フェア 2017 は藤沢市民会館を中心に12月9日（土）に開催されました。9時50分に青木正美実行委員長の「ここで得たことを今日から実践しましょう」との力強い開会宣言に始まり、キッズダンスと鈴木恒夫市長の挨拶や寸劇、市長とのジャンケン大会と賑やかなオープニングイベントでスタートを切りました。参加は46団体（20市民団体（協同組合・社団法人含）、1大学、17企業、8行政）で、当日の来場者は3,600名を越えました。今年はガイドツアーの回数を増やし、よりきめ細かく来場者のニーズに応えられるようになりました。それでも「第1展示場から第2展示場へはどうやって行くのです？」と聞かれることがありました。また、例年、屋外ブースは2ヶ所に分かれていましたが、今回は飲食ブースも含めて市民会館前庭に統合されました。

新しい試みとして市民共同発電所を実現したふじさわサンエナジーによる「太陽光発電のパネル組立実演」やサテライト会場としてNDビル6Fにおいて放射能測定協議会主催による宝塚市長をお招きして「太陽光発電についての学習会」が行われました。市民会館会場が不足したことから会場が離れてしまいましたが、参加する市民にとって駅に近い会場で行われたことをどう評価すべきか検討課題です。サテライト会場についてはこれを機会に、駅周辺商店街との連携等これまでも課題になっていた面的な広がり的形成することに繋がればと考えます。また、最先端技術の燃料電池車同乗体験は親子3名まで可能になり、相変わらずの人気ぶりでした。さらに、企業ブースでは環境に配慮した最先端の企業展示があり、環境に関わる日本の技術

〈藤沢エコネットニュース284号〉

の高度を知る良い機会になったと思います。

Eco²（Ecoの2乗まつりとはecology×CO₂=Eco²を意味し、「エコ・エコまつり 2017」と呼びます。子ども達に環境への関心を持って欲しいとの思いを込めて、市内公立小学校の全児童、私立小学校、保育園・幼稚園等に加え公民館や市内事業所等にチラシ33,000枚を配布し、啓発してきました。小学生が家族ぐるみで参加し、クイズに挑戦している姿があり、家族揃って楽しむお祭りにという目標は達成しているようです。しかしながら、中高生の来場者が少ないことが今後の課題です。また、6月開催であった環境フェアが近年、11～12月開催が続いていますが。



ワークショップブースの様子

市民要望の高かったメダカの会による「藤沢メダカの稚魚」の配布ができなくなってしまっています。多くの市民の要望に応えるためには秋以降の環境フェア開催では産卵期を過ぎてしまうからです。これらの課題を克服して「ふじさわ環境フェア」がさらに発展するためには、開催時期も含めて参加者、出展者アンケートを基に、その結果を受けて次回に繋げていく取り組みが期待されます。（企画実行委員 宮地俊作）



太陽光パネルの組立て実演

武田薬品遺伝子組み換え微生物 漏えい事故を忘れない

遺伝子組み換え実験廃液漏えい事故から6年を迎えて、2017年12月1日武田問題対策連絡会は、漏えい事故6周年門前抗議行動を行いました。

6年前の2011年11月30日に起きた武田薬品湘南研究所漏えい事故は、遺伝子組み換え微生物の入った廃水が1階フロアーいっぱいに漏れるなど、悲惨な事故でした。

厳重に管理されるべき遺伝子組み換え実験排水が、一括滅菌装置で滅菌する前の段階の廃水タンクから、いとも簡単に漏えいしたという事故は、あってはならないことです。



武田薬品湘南研究所は、不適切なアセスメントの実施で周辺住民の反対運動にもかかわらず、人口密集地の藤沢市、鎌倉市に建設されたもので、すでに7年間にわたって稼働を続けています。

武田薬品の現経営陣は、グローバル化のもと、ほとんど外国人が占め、株主総会でも湘南研究所の状況については大幅な組織体制の変貌のみ触れられ、安心・安全な管理体制、環境保全については述べられませんでした。

現在、湘南研究所内に11の新会社が設立されたそうなので、その管理体制が不透明です。武田薬品は全責任を負うと公言していますが、藤沢市、鎌倉市の両行政もしっかりと監督・指導を続けることを要望します。

(安楽菊男)

セメント公害か？父、発作で倒れる

20年間セメント工場で働いた父が気管支喘息で突然倒れた。ヒーヒーゼイゼイと今にも死ぬかと思う苦しみ方で、医者に行った。エフェドリン、アドレナリンと言うかなり強い注射でどうにか助かった。約1か月間毎日発作が続き、その度に“死ぬ！死ぬ”と苦しそうだった。一遺言も生まれて初めて聞いた。

子どもながらに、財閥解体が始まり、日本の友だち家族はつぎつぎと引越していき、寂しくつらい毎日だった。

そんな中、朝鮮人一家だけは、石灰採石地の飯場ぐらしで残っていた。父に発作が起きると、仕事の帰りに兄貴分は我が家に立ち寄り、付き添ってくれた。「万一のときはこれを注射するように！」と医者が置いていった発作止めを私たちは怖くてできなかったが、それを見ていた兄貴分は、父の肩にアルコール消毒した注射針を一気に突き立てた。

さすが、コメ騒動事件の際に最後まで抵抗し銃殺された朝鮮人抗夫と、その憲兵の手に噛みついた彼の妻との間に生まれた朝太郎（兄貴分）だけあり、肝がすわっていた。私と同級生の朝子は、父の背中をずっとさすってくれていた。死よりつらいあえぎに大きく揺れ動く背中にも、私は怖くて手が出せなかった。

見舞いにもらった「長崎カステラ」は私も大好物だったが、気前よく半分あげた。

(二ノ岳山頂部観音岩から見た1ノ岳採石場全景 1991.4.21)



当時公害という言葉は知るよしもなかった。今考えるとこれが「セメント公害のはしり」だったのかと思う。セメント業界は戦後の復興ブームで、好景気だった。財閥解体は、無事に終わり、父はだれからも恨まれることなく北九州から神奈川県の川崎に転勤となった。京浜工業地帯の中心地・川崎へ……。つづく（国枝 健）

ジェット気流発見にまつわる話し

(17) エピローグ 高層気象研究のパイオニア

今から70年ほど前、1947年、シカゴ大学の気象学部に所属する研究者達が、ジェット気流に関する名高い論文を発表した。この論文は、同時代に行われた大気大循環に関する研究に新しい知見を与え、ジェット気流の理解を推し進める役割を果たした。風速の増大は、太平洋岸上空から東側に延び、さらに西部大西洋にまで広がることが示されていたが、まだこの時代には、詳細な力学的背景は明らかにされていない。

大石和三郎は、館野高層気象台を創設して高層気象観測を行い、圏界面の少し下層に現れる強い西風、すなわちシカゴ大学の研究者がジェット気流と命名した強風を、彼らより約20年先んじて観測することに成功し、図に示した。しかし、発見者として国際的に認められることはなかった（少なくとも、彼の生前に置いて、ジェット気流の発見者とされていない）。

国内において大石は、獲得した知識を糧にして、日本の高層気象分野の研究発展を推し進める有力な一員に成長した。それは、明治復興の初期に日本が描いた姿そのものだった。嫉妬深く顕微鏡のなかに秘密を閉じ込め、それが医学の進歩を遅らせることとなったレーウェンフック（前回記事参照）と違い、精力的に観測をおこない、研究結果を客観的な事実として他者に伝える努力を怠らなかった。日本の科学技術の歴史にとって、黎明期でありまた難しい時代に行われたこうした活動は、賞賛に値することである。（おわり）
林 陽生（NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長）

放射能測定値（市民計測）

（HORIBA Radi）単位（ $\mu\text{Sv/h}$ ）

12/17	市役所新庁舎 9f	0.048
//	5f 屋上庭園	0.041
//	議会通路	0.044
12/18	衆議院会館第一内	0.050
因みにハワイでは		
12/5	ホノルルビーチ	0.021

ECONET INFORMATION

▲空気の汚れ（ NO_2 ）

測定したカプセルを分析器を使って
分析してみませんか



1月18日（木）14:00 藤沢橋測定所集會室
藤沢の空気を考える会

▲講演 「マーシャルの人々は今」

講師 武本匡弘さん（プロダイバー）

2018年2月4日（日）14:00-16:00

市民会館第1展示ホール 参加費500円

主催 ピースリレーふじさわ

▲（一社）藤沢サンエナジー 出資者説明会

1/14（日）18:00-20:00 市民活動推進センター

▲福島原発神奈川訴訟

横浜地方裁判所で 傍聴しませんか

1/19（金）9:30 集合 開廷 10:00

福島原発かながわ訴訟を支援する会

▲神奈川から見る気候変動

講師 西岡秀三氏ほか

2月15日（木）14:00～ 入場無料

地球市民かながわプラザ（本郷台駅前）

申込み／主催 県環境計画課 ☎045-2104-4065

2/8までに申し込みを



▲藤沢エコネットから

◆藤沢エコネット巻頭言について懇談&新年会
1/27（土）10:00- 推進センター

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 1月12日（金）14:00～
市民活動推進センター

《編集後記》 新年おめでとうございます。藤沢エコネットニュースも毎月発行を多くの会員と共に続けて来られました。今年も元気に発行する覚悟ですが高齢化もしています。どうか皆様のお力を貸していただき、読みやすい誌面となるように願っています。今年は成年、古くから人間と暮らしてきた犬は安産、多産で知られていますが、日本も子どもを産み育てられる社会を、これ以上少子化を防ぐようになり、若い世代に引継ぎができるといいです！本年もよろしくお願い致します。（H）